

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

論述式・記述式

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

I・IIがアジア史中心, III・IVが欧米史中心という出題範囲の大きな枠組みに変化はない。

その他トピックス(入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

2018・19年と2年連続, 第二次世界大戦後からの出題が少なかったが, 本年度は, IIIが戦後史であり,

IVで21世紀史からの出題がみられた。

IIIの300字論述問題は, 冬期講習『世界史論述演習』の第1講3番の問題がズバリの。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述	イラン系民族の活動と中国文化に与えた影響	6～7世紀ユーラシア大陸東部で生まれた大帝国(隋唐・突厥)時代のイラン系民族の活動と, それが同時代の中国の文化に与えた影響について説明する300字論述。大帝国の1つとして突厥を想起することができるか, 中国の文化への影響として具体的事例をどれだけ挙げることができるかがポイント。	やや難
II	A 記述	ムスリムと非ムスリムの関係	ムスリムと非ムスリムのさまざまな関係性をテーマに, イスラーム史を中心に政治・経済・文化などから幅広く問う問題。問(8)の「マンサブダール」が答えづらい。	標準
	B 記述	中国の海軍	林則徐の時代から現代までの中国における海軍の歴史をテーマに, 中国近代史を中心に問う問題。解答となる語は教科書レベルだが, 学んだことがないような情報をヒントに解答にたどり着かなければいけない問題がみられた。	標準
III	論述	核兵器と国際関係	1962年から1987年までの国際関係を, 核兵器の製造・保有・配備, および核兵器をめぐる国際的合意に言及しながら説明する300字論述。核兵器をめぐる動向が中心ではなく, あくまで問題の主旨は国際関係を説明することである。	やや難
IV	A 記述 論述	戦争論	古代ギリシアから17世紀までのヨーロッパにおける戦争論を扱った問題。政治・社会経済・文化など, さまざまな分野から出題され, 小論述問題は2問だった。	標準
	B 記述 論述	文字と情報伝達手段	文字と情報伝達手段をテーマに, 先史時代から21世紀の「アラブの春」まで, 幅広く問う問題。小論述問題は3問出題された。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

近年, II・IVの記述問題や小論述問題でなかなか手強い問題が増えてきている。しかし, 全体としては高等学校の学習範囲を越えるものではないので, 教科書の内容を古代から現代まで「穴」のないように理解する学習を心掛けよう。そして, 論述問題の出来が合否を左右するだけに, 普段の学習のなかで, 「歴史事象」の因果関係の理解に力点をおいて, 「歴史の流れ」を正確に把握する学習を進めてほしい。また, 中国史やイスラーム史, 古代ギリシア・ローマ史など特定の地域・分野が毎年出題されているので, 京都大学の過去問の研究を進めておくことは, 有効な学習対策となるだろう。